


平成 29 年 9 月 6 日

平成 28 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	日本社会事業大学	職名	非常勤講師	助成金額	200,000 円
氏名	木下 知威				
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）					
近代日本における盲人・聾者の言説とコミュニティの形成 - 視覚・聴覚特別支援学校（盲学校・聾学校）における史料調査と分析を中心に -					
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>盲啞学校とは、明治から戦前まで視覚障害・聴覚障害という異なる身体障害をもつ生徒が教育を受けつつ、寄宿舎で共同生活がされていた学校である。明治末期には全国で約 50 校あり、京都盲啞院（1878（明治 11））と東京盲啞学校（1880（明治 13）年）が中心であった。1923（大正 12）年、文部省によって盲学校と聾学校に分離していく。2007 年に行われた学校教育法の改正によって成立した特別支援学校（盲・聾・養護学校を統合できる学校制度）の原点となっている。</p> <p>本研究においては、盲学校・聾学校（もしくは特別支援学校）に保管されている盲啞学校史料や近代の教育雑誌などを調査対象に現地調査を行い、資料分析の方針を立てることで盲啞学校におけるコミュニティの形成について明らかにすることを目的としている。</p> <p>A、史料調査 助成金の支給額に応じた計画を再検討し、調査を実施した。対象としては明治時代に開校し、今も続く視覚・聴覚特別支援学校（盲学校・聾学校）と資料を保管する図書館である。これらの諸機関において盲啞学校時代における学校運営、盲人やろう者の動向が判明する文書・雑誌類を調査した。代表的な調査先は以下のとおりである。</p> <p style="padding-left: 40px;">国立国会図書館、東京大学総合図書館、早稲田大学図書館、筑波大学図書館、宮内庁図書寮文庫 京都府立盲学校、京都府立聾学校 筑波大学附属視覚特別支援学校・聴覚特別支援学校 長崎県立盲学校、徳島県立視覚・聴覚特別支援学校 熊本県立盲学校、熊本県立聾学校</p> <p>B、史料分析・考察 A で行った史料調査を通じて得られた史料をもとに盲人と聾者をめぐる言説とコミュニティについて、分析と考察を行った。ここで得られた成果の一部は編著書、論文において平成 29 年 12 月に公表される予定である（「助成金を使用した成果に関する発表」を参照されたい）。</p>					
助成金の使用金額及び使途					
<p>助成金の使用金額は 200,000 円である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盲学校、聾学校、特別支援学校、図書館における調査費（178,000 円）。 （調査費は交通費・宿泊代に該当し、調査は申請者が単独で行った。） ・図書館における史料複写費（22,000 円）。 					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
<p>主に 2 点の成果が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・編著書 『伊沢修二と台湾』台大出版中心、2017 年末出版予定。 ・論文 「指文字の浸透 - 蘭学・洋学における西洋指文字の受容」『手話学研究』26、日本手話学会、2017 年末出版予定。 					